令和6年度 いなばメルヘン米コシヒカリ栽培こよみ

田植えは5月15日を中心に行いましょう
（中山間地は除く）

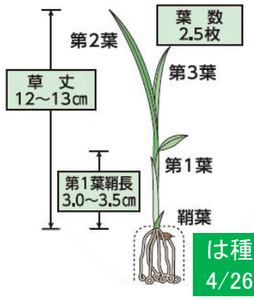
この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています

目標	
	1等米比率90%
	食味値80以上
	玄米タンパク含有量7．0以下

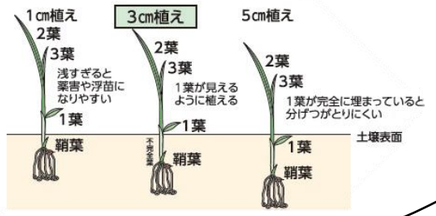
いなば農業技術者協議会

生育のイメージ

理想的な苗



適正な植付深度



茎数25本/株

茎数
19本/株

無効分げつ

穂数
19本/株

分げつの増え方（70株/坪）

畦畔の草刈りを行い
カメムシを発生を防ぐ

幼穂長2mm

【出穂期】
ほ場の40～50%の株で出穂した頃
【穂揃期】
ほ場の80～90%の株で出穂した頃
（出穂期の2～3日後）

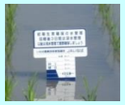
最重点技術対策
- 土づくりの徹底
- 初期分げつの確保
- 穂揃期の葉色確保
- 適期病害虫防除の徹底
- 出穂後の適正な水管理

は種 4/26 ／ 田植え 5/15 ／ 幼穂形成期 7/13頃 ／ 出穂期 8/5頃 ／ 成熟期 9/13頃

4月	5月	6月	7月	8月	9月
育苗期	田植期 ／ 活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期～穂ばらみ期	登熟期

水管理

水深スケールの有効活用



- **やや深水**（時々水を入れ替える）
- 活着後 **浅水管理**
- **溝掘り**
- **中干し**
- 中干し後～幼穂形成期頃 **間断かん水**
- 幼穂形成期～出穂期 **飽水管理**（手溝の水が切れない程度）
- 出穂後20日間 **湛水管理**（こまめに水の入替）
- 収穫5～7日前まで **間断かん水**（落水を急がない）

施肥

一発

土づくり
秋に散布が行えなかったほ場

苦土重焼燐30
中山間地等

Jコートコシヒカリ S号・LPssコシヒカリL号

側条

LP555-1号

全層

化成肥料14-14-14　化成肥料14-14-14

・エスアイ加里らくだ
・カリ投げくん
中間追肥

追肥3号※1

追肥3号 1回目　追肥3号 2回目

※1 出穂7日前の葉色が淡い場合（4.0未満）に追加施用する

肥料の施用量については座談会資料等を参照する

土づくり

防除

農薬使用成分数 13成分以内

- 箱粒施薬 は種時（覆土前）～移植当日
- 本田除草剤散布 農薬注文書参照
- 畦畔等の除草 **草刈運動期間 7月1日～10日**
- 基本防除（粒剤）出穂5日前 （豆つぶ剤）穂揃期※2
  （粉剤・液剤）1回目：穂揃期 2回目：傾穂期

※2 カメムシの多発が予想される場合は【粒剤・豆つぶ剤】の使用を避ける

栽培技術のポイント

○土づくり

土づくり資材や堆肥の施用を継続的に行う

資材名	施用量（kg/10a）
鉄入り元気	80kg以上
ハイタフ特号（粒）	100kg以上
ケイカル（粒）	100kg以上
けい酸加里	40kg以上

中間追肥省力型

カリ入り元気5号	80kg以上
有機加里入りシリカロマン2号	80kg以上

堆肥の種類	施用量（kg/10a）
醗酵鶏ふん	春 75～100kg
	秋 100～150kg
牛ふん堆肥	春 1t
	秋 1～2t
籾がら堆肥	2t

堆肥を春施用するほ場では基肥量で1～2割程度の減肥をする

○耕起・代かき

- 現状＋3cm（15cm以上の作土層を確保）
- 秋耕しが出来なかったほ場では、ゆっくり行う
- 少なめの水で代かきを行い、稲わら等をすき込む

○苗箱施薬

農薬名	使用時期	使用量
ブーンレパード 箱粒剤	は種時（覆土前）～移植当日	50g/箱
スタウトアレスモンガレス 箱粒剤【イナゴ対策】	は種時（覆土前）～移植当日	50g/箱

○田植え

- 栽植株数70株/坪
- 植付本数3～4本/株
- 植付深さ3cm
- 肥料の設定を確認する

○除草剤散布

- 散布後7日間は止水状態（落水やかけ流しをしない）
- ジャンボ剤は5cm以上の深水状態で散布（藻の多発地では使用を避ける）

○溝掘り・中干し

- 溝掘りは6月上旬までに行い、随時手直しを行う（10～15条に1本程度）
- 中干しは田植後4週間以内を目安に開始する

○中間追肥

- 稲体の体質強化と倒伏軽減のため施用する（散布時期6月20日～25日頃）

資材名	施用量（10aあたり）
エスアイカリらくだ	10kg以上
エスアイ加里カリ投げくん	4kg以上

○適正な穂肥

- 1回目 ： 幼穂形成期から7日後頃（幼穂15mm頃）
- 2回目 ： 1回目から7日後

出穂7日前に葉色が淡い場合（4.0未満）は追加穂肥を施用

※出穂以降、過剰施用で玄米タンパクが高くなるので注意

○基本防除

斑点米の発生を防ぐため、**適期に2回**防除を徹底する

防除時期	薬剤名		散布量（10aあたり）		収穫前日数
1回目 穂揃期	粉剤	キラップ粉剤DL	4kg		14日前まで
	液剤	キラップフロアブル	75mℓ	水150ℓ	14日前まで
2回目 傾穂期	粉剤	スタークル粉剤DL	3kg		7日前まで
	液剤	スタークル液剤10	150mℓ	水150ℓ	7日前まで

防除間隔は7日間を目安とし、10日間以上あけない！！

【粒剤体系】出穂5日前頃・【豆つぶ剤体系】穂揃期
- 『キラップ粒剤』： 3kg/10a （収穫14日前まで）
- 『スタークル豆つぶ』： 250g/10a （収穫7日前まで）

水深5cm程度の湛水状態で散布。散布後7日間は落水しない

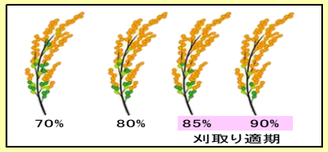
クモヘリカメムシ

○随時防除

防除時期	薬剤名		散布量（10aあたり）		収穫前日数
出穂前	粉剤	ブラシン粉剤DL	3～4kg		7日前まで
	液剤	ブラシンフロアブル	150mℓ	水150ℓ	7日前まで

○収穫・乾燥調製

- 籾の黄化率85～90%程度で収穫する
- 仕上げ玄米水分14．5～15．0%（過乾燥で食味が低下）
- 異物、異品種混入に注意する



育苗

4月

16日 ／ 22日 ／ 23日 ／ 24日 ／ 26日 ／ 29日

浸種（7～10日間程度）
- 浸種水温は10～15℃を7確保
- 浸種の積算温度100℃以上を確保

タフブロック種子消毒

催芽

陰干し

は種

（出芽期）

搬出

（緑化期）

5月

1日 ／ 8日 ／ 15日

（硬化期）→

育苗日数 （は種日も含めて19日間以内）

※ハウスの温度が25℃以下となるよう換気を徹底する

夜間も換気を行う

田植え